

鉄道開業150周年 鉄道が登場する千葉の文学2

書名	著者	出版情報	登場する路線・駅	請求記号
春の潮	伊藤 左千夫	岩波書店 1976	成東駅、佐倉駅	91868/伊 1/2 「左千夫全集 第2巻」収録
農村を背景にした恋愛風物語。「隣の嫁」の後日譚。九十九里浜の情景とともに、農村での暮らしが描かれる。ラストシーンは鉄道が舞台。成東から汽車に乗り、日向、八街を通り佐倉で一度下車。旅宿の一室を借りて、次の発車まで休息後、再び汽車に乗り千葉へ向う。「ホトトギス」明治41年4月号初出。				
胡頹子（ぐみ）	伊藤 左千夫	岩波書店 1976	松尾駅、八街駅、佐倉駅、成田線	91868/伊 1/2 「左千夫全集 第2巻」収録
日の出と共に松尾駅を出発。成東、八街を通り、佐倉で成田線に乗り換えて成田詣でに向かう夫婦。泊まりがけである。乗客の様子が詳しく描かれている。成田線でがらっと様子が変わり、「段の違う人達」で混み合う中、夫婦は蜜柑を半分こして食べる場面がある。「ホトトギス」明治42年1月初出。				
佐原行	芥川 龍之介	岩波書店 1968	千葉駅、成田駅、佐原駅、銚子駅	9186/A39/（中） 「芥川龍之介未定稿集」収録
明治43年3月、芥川18歳の時水郷を訪れた。その他に、この「芥川龍之介未定稿集」には「勝浦雑筆 車窓録（東京、大原間）」明治39年夏芥川14歳、姉らと勝浦・小湊へ。「銚子行」、「水郷記」の紀行文があり、いずれも汽車で向っている。				
和解	志賀 直哉	文芸春秋 1970	我孫子駅、常磐線	9186/70/13 「現代日本文学13」収録
16年間確執を続けてきた父親と和解していく過程を描いた中編の私小説。著者は大正4年から約7年半我孫子に住んでいて、作中にはたびたび我孫子駅が登場する。美しい我孫子駅での見送りシーンが印象深い。「黒潮」大正6年10月初出。				
水郷めぐり	若山 牧水	宝文館 1959	成田駅、佐原駅	29135/SU51/（中） 「水郷・房総 日本の風土記」収録
大正8年、友人と香取鹿島から霞ヶ浦あたりを訪れた紀行文。上野から汽車に乗り、途中成田で不動様を参詣。当時の終点佐原駅で下車しそこから俣、汽船で水郷を廻った。				
小湊鉄道のあけぼの 流紋	遠山 あき	千葉日報社 2013	小湊鉄道、五井駅、月崎駅	C936/ト7 1/
明治時代、市原の養老川沿い、川と寄り添い生きてきた人々の人間模様。そして、大正14年小湊鉄道敷設に伴う苦悩と喜びの物語。山は険しく谷は深く、難工事の様子が描かれる。				
帆	宮本 百合子	新日本出版社 1979	稲毛駅	91868/ミユ 1/3 「宮本百合子全集 第3巻」収録
ドイツ語講師にして、女にちやほやされ、ずぼらだが憎めない男と、その弟子の主人公の女性が登場する短編小説。二人でふらっと稲毛に遊びに行くことになり、両国から稲毛へ汽車で向かう。五月の陽気と車窓からの景色が相まって道程は楽しげな様子。「文芸春秋」昭和2年10月初出。				
放浪記	林 芙美子	岩波書店 2014	三門駅	9136/ハ7 13/
貧困にあえぎ、職を転々としながらも、たくましく生きる。日記をもとに構成した、著者の若き日の自伝。第一部、当てのない旅で興津行き汽車に乗り、三門駅で下車する場面がある。「女人芸術」昭和3年8月初出。				
花束の虫	大阪 圭吉	東京創元社 2001	銚子駅	K9/A 3770/ 「銀座幽霊」収録
屏風ヶ浦で起きた奇怪な殺人事件の謎を解く短篇小説。探偵が東京から銚子へ汽車で向かう。「冬とはいえ珍しい小春日和で、列車内はスチームの熱気でムッとするほどの温かさだった。」昭和初期の主流、蒸気暖房の様子。「ぷろふいる」昭和9年4月初出。				

書名	著者	出版情報	登場する路線・駅	請求記号
わたしが・棄てた・女	遠藤 周作	新潮社 1999	市川駅	91868/エシ 2/99 -5 「遠藤周作文学全集 5」収録
一人の青年への一途な愛と過酷な運命を生きた女性の物語。冒頭、主人公の青年がピラ配りのアルバイトをするため、御茶ノ水から国電に乗り、市川駅で下車。「主婦の友」昭和38年1月初出。				
銚子にて	野田 宇太郎	宝文館 1959	銚子駅	29135/SU51/ (中) 「水郷・房総 日本の風土記」収録
昭和27年、国木田独歩生誕の地、銚子に記念の「独歩詩碑」が建つことになり、除幕式に参列するために、銚子を訪れた。両国から汽車に乗り銚子まで3時間の旅だった。講演を終え宿でうとうとしていたら、どこかで汽笛の音が鳴り出した。翌朝女中に聞いてみると、灯台で鳴らした霧笛だった。				
房総の旅	田宮 虎彦	宝文館 1959	小湊鐵道、朝生原駅、上総中野、千倉駅	29135/SU51/ (中) 「水郷・房総 日本の風土記」収録
昭和28年、友人と二人で冬至ちかいある日、三泊四日の旅に出かけた。「安房は、遠い土地」と思っていたのに、「両国から安房鴨川まで4時間にしかすぎない。」そうだ。「五井駅でガソリンカーの小湊鐵道に乗り朝生原（現在の養老溪谷駅）まで1時間10分。」とある。房総東線の車窓から見た太平洋の雄大さや、和田町辺りの花園の美しさが語られている。				
Dの複合	松本 清張	文藝春秋 1971	成田駅、館山駅、九重駅	91368/マセ 1/3 「松本清張全集 3」収録
日本各地に残る民俗説話の世界と現代の怨念にまつわる殺人事件との複合を描くミステリ。千葉の鉄道では、成田駅や館山駅、九重駅の名前が登場。「宝石」1965年10月号初出。				
正義と微笑	太宰 治	筑摩書房 1998	千葉駅、片貝	91868/ヲ 1/6 「太宰治全集 6」収録
16歳から18歳までの青年の日記体小説。昭和10年頃の様子。九十九里の別荘に向かうため、午後1時すぎに両国を立ち、千葉で勝浦行きに乗換え、夕方片貝についた。車内から見た風景は「ごみっぽい郊外」だそうだ。				
幕張少年マサイ族	椎名 誠	東京新聞 2021	幕張駅	C946/シマ 2/
椎名誠が千葉に越してきた5歳ごろから少年時代までの印象的な出来事を記した自伝エッセイ。1950年代幕張。蒸気機関車が長い貨物をひっぱって走っていた時代。国鉄と私鉄が集まり、貨車の入れ替えをしょっちゅうして踏切は「あかずのバカ踏切」と呼ばれていたなどのエピソードが語られる。				
小暮写真館	宮部 みゆき	講談社 2010	小湊鐵道	9136/ミ 37/
小暮写真館に住むことになった男子高校生が写真に秘められた物語を解き明かす心温まる現代ミステリー。小湊鐵道飯給（いたぶ）駅が表紙。				
トモンビ 銚子電鉄の小さな奇蹟	吉野 翠	T0ブックス 2015	銚子電鉄、総武線、内房線	C936/ヨ 1/
関東の最東端のローカル線「銚子電鉄」には、乗客の数だけ人生のドラマがあった…。心がほっこりと温まる、電車と人びとの優しい物語。「終点の外川からなら自転車でも勝てる」。トウモロコシ畑からキャベツ畑のなかをのんびり走る銚子電鉄が全編にわたり登場。各駅の歴史や情景が細かく描写されている。				
電車を止めるな! 呪いの6.4km	寺井 広樹	PHP研究所 2019	銚子電鉄、外川	C936/テ 1/
銚子電鉄が廃線危機を救うべく企画した心霊電車イベント。だがそこに、本物の幽霊が!? 密室の車内で巻き起こる、ホラー・コメディ小説。2019年8月公開映画の原作。				
きみとホームで待ち合わせ	神戸 遙真	講談社 2021	西千葉駅、五井駅、土気駅、総武本線	C9136/コハ 3/
最寄り駅が総武線・西千葉駅の高校生たちの青春連作短編集。千葉県内の各所から通う学生達とともにたくさんの駅名が登場。電車通学の気分が味わえるかも。				

※請求記号欄内に（中）、（西）表記がある資料は、中央、西部図書館所蔵です。取り寄せができます。